



～ まず、知ることから始めましょう。 それが「一緒に暮らすことへの第一歩になるのです。～

まず、障がいについて理解してください	そして、こんな配慮をお願いします
<p>障がいは誰にでも生じ得るものです。 病気や事故はいつ起こるかわかりません。同様に、障がいはいつでも誰にでも生じ得るものなのです。</p>	<p>障がいのある方に対して冷たい視線を送ったり、見て見ないふりをするのは避けてください。そして温かく接してください。</p>
<p>障がいは多種多様で同じ障がいでも一律ではありません。 障がいの種類も程度もさまざまであり、同じ障がいでも、その症状は一律ではありません。また、複数の障がいを併せ持つ場合もあります。</p>	<p>困っていそうな場面を見かけたら 「何かお困りですか」と一声かけて、自分でできるサポートをしましょう。見守ることと、時には支える姿勢が大切です。</p>
<p>外見で分るものだけでなく、外見では分からない障がいのため、理解されず苦しんでいる方もおられます。 障がいは多種多様であり、外見だけでは障がいがあることが分からないこともあるため、周囲に理解されず、苦しんでいる方もおられます。</p>	<p>「障がいがあるから」と決め付けず それぞれの個性や能力が活かせることを一緒に考えてみましょう。</p>
<p>周囲の理解や配慮があれば、活躍できることがたくさんあります。 目が悪くなれば眼鏡をかけるように、不自由さを補う道具や援助があれば活躍できることはたくさんあります。</p>	<p>介助者がいても 介助者ではなく本人に話しかけましょう。</p>
<p>障がいの種類・程度は人それぞれに違いますが、少しの介助があれば、地域の中で日常生活を営み、障がいのない方と同じ職場で働いている方や、趣味やスポーツなどで活躍している方もたくさんあります。</p>	<p>自分のイメージですべての障がい者を見ないでください。 障がいだけを見るのではなく、その人の全体像を見て接しましょう。</p>

あいサポート運動 シンボルマーク



障がいのある方を支える「心」を2つのハートを重ねることで表現しました。後ろの白いハートは、障がいのある方を支える様子を表すとともに、「SUPPORTER（サポーター）」の「S」を表現しています。ベースとしている「橙色（だいたいいろ）」は、鳥取県出身で日本の障がい者福祉に尽力された糸賀一雄氏の残した言葉「この子らを世の光に」から「光」や、「暖かさ」をイメージするものとしています。

また、「だいたい（代々）」にちなみ、あいサポーター（障がい者サポーター）が広がって、共生社会が実現されることへの期待も込められています。

「あいサポート」とは「愛情」の「愛」、私の「I」に共通する「あい」と、支える、応援する意味の「サポート」を組み合わせ、障がいのある方を優しく支え、自分の意志で行動することを意味しています。

サポーター宣言

- あわたしたちは、多様な障がいの特性を理解し、お互いが分かり合えるように努めます。
- わたしたちは、日常生活で障がいのある方が困っている場面を見かけたら、声をかけ、手助けを行います。
- わたしたちは、「あいサポート」バッジを身につけ、気軽に声をかけやすい環境をつくりまします。
- わたしたちは、「あいサポート」の仲間の輪を広げ、共に生きるよろこびを伝えます。

【お問い合わせ】

鳥取県社会福祉協議会 地域福祉部

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5 鳥取県立福祉人材研修センター

(電話)0857-59-6332

(ファクシミリ)0857-59-6340